帝塚山大学研究インテグリティの確保に係る規程

制定 令和7年3月28日

(目的)

第1条 この規程は、帝塚山大学（以下「本学」という。）における研究活動の国際化、オープン化に伴う研究インテグリティを確保するために必要な事項を定め、国際的に信頼性のある研究環境を構築することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において「研究インテグリティ」とは、研究活動の国際化及びオープン化に伴うリスクに対する研究の健全性・公正性をいう。

2 この規程において「教職員等」とは、本学において研究活動を行う教員及び本学の施設又は設備若しくは研究費を利用して研究活動を行うすべての者、並びに、研究費の管理・研究支援を行う事務職員、その他関連する者（学生及び研究生、その他本学において修学する者を含む。）をいう。

(学長の責務)

第3条 学長は、研究インテグリティを確保するための体制を整備するものとする。

(教職員等の責務)

第4条 教職員等は、自らの研究活動の透明性を確保し、説明責任を果たすため、必要な情報について本学に報告を行うものとする。

(統括責任者)

第5条 本学に、研究インテグリティの確保に係るマネジメント（以下「研究インテグリティ・マネジメント」という。）に関する業務を統括させるため、研究インテグリティ・マネジメント統括責任者（以下「統括責任者」という。）を置く。

2 統括責任者は、研究支援を担当する副学長をもって充てる。

3 統括責任者は、研究インテグリティを確保する責任者であり、基本方針に基づき、活動等の具体的な対策を策定・実施し、実施状況を確認するとともに、実施状況を学長に報告する。

(研究インテグリティを所掌する委員会)

第6条 研究インテグリティの確保に関する事項は、不正防止計画推進室が所掌する。

(相談窓口)

第7条 研究インテグリティの確保に関して、研究者からの相談に対応する窓口を学長室に設置し、効率的かつ適切な運営を行う。

(守秘義務)

第8条 研究インテグリティの確保に関する情報を扱う者は、その任務の遂行上知り得た情報を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、研究インテグリティの確保に関して必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は，大学協議会の議を経て，学長がこれを行う。

附 則

この規程は，令和7年4月1日から施行する。